

世界に広まった 「丁字戦法」

「取舵一杯」
とりかじいっぱい

日本海海戦でバルチック艦隊を捉えた際、司令長官・東郷平八郎はUターンを命じます。完全勝利に導いたこの敵前大回頭は、のちに「東郷ターン」と呼ばれるようになりました。

従来、このときに使われた戦法は、進んでく敵艦隊の前を敵前大回頭により遮る形の「丁字戦法」とされてきました。しかし近年の研究では、そうでなかったことがわかっています。

日本海海戦の九カ月前、黄海海戦において丁字戦法を採ろうとした日本の連合艦隊は、ロシアの艦隊を全滅させなければならなかったのに、取り逃がしてしまいました。この戦法は、向かってくる敵には有効ですが、逃げようとしている敵には効果的ではなかったからです。

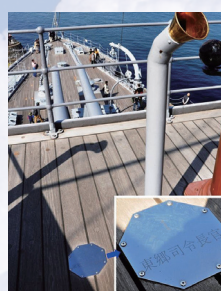
実際には使われていない丁字戦法で、連合艦隊が日本海海戦で勝利したとされてきたのは、海戦後の軍令部による発表が要因の一つと考えられます。

なぜ事実と異なる発表をしたのかは不明ですが、この発表により「Crossing the T」とい

う名で、丁字戦法は世界に広まりました。

七年後に行なわれたバルカン戦争におけるエリノ海戦では、ギリシャ艦隊がオスマン艦隊に丁字戦法を使用。さらにその四年後の第一次世界大戦におけるユトランド沖海戦でも、イギリス艦隊がドイツの艦隊に対してこの戦法を使いました。

いずれも丁字戦法ではうまくいかず、敵を撃破できずに取り逃がしています。十年以上経っても丁字戦法は有効だと考えられていたわけです。日本海海戦での完全勝利が世界に与えたインパクトは、それだけ大きかったと言えるのではないのでしょうか。



艦橋には東郷平八郎が立っていた位置にプレートがある



記念艦三笠の操舵室

三笠だより
東郷元帥の敵前大回頭、それにまつわる、ちょっとした豆知識をご紹介します。

なぜ面舵、取舵というのか

バルチック艦隊との決戦で敵前大回頭が行なわれた際、「取舵一杯」との指示が下りました。さて、そもそもなぜ舵を切るときに、「取舵」「面舵」と言うのでしょうか。

和船は右に旋回するとき、左に舵を切ります。右に回頭する際の「面舵」は、「卯（う）の舵」が訛ったものだそうです。江戸時代における航海用の羅針盤は左回りに十二支を配しており（逆針、時計でいえば十二時の方向に進んでいるとすると、九時（左）にあたるのが「卯」になります。逆に、三時（右）にあたるのが「酉（とり）」、つまり取舵となる。和船の習慣が明治時代を経て、現代まで続いているわけです。

記念艦三笠の艦橋には、日本海海戦の間、東郷元帥が立ち続けた位置に、プレートがはめられています。訪れた際には、そこに立って臨場感を味わってみてはいかがでしょうか。



今月のおすすめ商品
戦艦「三笠」1/350スケールキットプラモデル。
7,200円（税込）

今月の読者特典
『歴史街道』二〇一九年九月号を見たと言うと、

先着10名様にクリアファイル2枚セットをプレゼント！



記念艦三笠

アクセス

大 人 6,000円
65歳以上 5,000円
高校生 3,000円
小中学生 無料
京急横須賀中央駅もしくは
JR横須賀駅より
三笠循環バスで「三笠公園」下車、
徒歩1分

観覧料金

TEL : 046 (822) 5225
http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/
神奈川県横須賀市稲岡町 82-19